

# 那須赤十字病院

## 公的医療機関等2025プラン

平成29年 10月 策定

I 那須赤十字病院の基本情報 (平成 29 年 7 月 1 日現在)

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 医療機関名 | 那須赤十字病院           |
| 開設主体  | 日本赤十字社            |
| 所在地   | 大田原市中田原 1081 番地 4 |

|         |                         |       |
|---------|-------------------------|-------|
| 許可病床数   | 460 床 (平成 29 年 7 月 1 日) |       |
| (病床の種別) | 一般                      | 454 床 |
|         | 療養                      | 床     |
|         | 結核                      | 床     |
|         | 精神                      | 床     |
|         | 感染症                     | 6 床   |
| (病床機能別) | 高度急性期                   | 57 床  |
|         | 急性期                     | 397 床 |
|         | 回復期                     | 床     |
|         | 慢性期                     | 床     |

|         |                         |       |
|---------|-------------------------|-------|
| 稼働病床数   | 450 床 (平成 29 年 7 月 1 日) |       |
| (病床の種別) | 一般                      | 444 床 |
|         | 療養                      | 床     |
|         | 結核                      | 床     |
|         | 精神                      | 床     |
|         | 感染症                     | 6 床   |
| (病床機能別) | 高度急性期                   | 47 床  |
|         | 急性期                     | 397 床 |
|         | 回復期                     | 床     |
|         | 慢性期                     | 床     |

|   |
|---|
| 診療科目 (標榜診療科)  |
| 内科 呼吸器・アレルギー内科 循環器内科 消化器内科 血液内科 糖尿病・内分泌内科<br>腎臓内科 神経内科 外科 呼吸器外科 消化器外科 心臓血管外科 整形外科<br>脳神経外科 形成外科 リウマチ科 小児科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科<br>耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 病理診断科<br>救急科 麻酔科 歯科口腔外科 (29 診療科) |

| 平成 29 年度 職員数 | 常勤職員数 | 常勤換算職員数 |
|--------------|-------|---------|
| 職員総数         | 885   | 915.2   |
| 医師           | 81    | 94.3    |
| 歯科医師         | 4     | 4.3     |
| 研修医          | 7     | 7       |
| 看護師          | 470   | 483.7   |
| うち助産師        | 26    | 26.8    |
| うち保健師        | 42    | 42      |
| その他看護関係職     | 71    | 71.7    |
| 専門職員         | 138   | 138     |
| 薬剤師          | 22    | 22      |
| 診療放射線技師      | 25    | 25      |
| 臨床検査技師       | 26    | 26      |
| リハビリテーション    | 33    | 33      |
| 管理栄養士        | 7     | 7       |
| 社会福祉士        | 5     | 5       |
| その他専門職       | 20    | 20      |
| 事務職その他       | 114   | 116.2   |

認定・指定等

救命救急センター、災害拠点病院、地域医療支援病院、へき地中核病院、エイズ診療拠点病院、脳卒中地域拠点医療機関、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、第二種感染症指定医療機関病院、臨床研修病院、各学会専門医制度研修・教育施設、DPC 病院Ⅲ群、総合入院体制加算、特定集中治療室管理料、緩和ケア病棟入院料

## II 構想区域の現状と課題

### 1. 構想区域の現状

県北地域は5市4町を区域とし、面積は県の34.8%を占めている。平成29年8月現在の人口は37.6万人で、老年人口割合は27.6%（平成28年10月時点（表1））となっており、那須烏山市、塩谷町、那須町、那珂川町は30%以上を示し、死亡数が出生数を大きく上回り、老年人口割合は、将来的に更に増加する見込みである。死因別死亡は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の順に高い（図1）。

医療施設としては、病院が21施設（一般病床：1,958床、療養病床：796床、精神病床1094床、感染病床：6床）、有床診療所が19施設（病床：297床）、無床診療所が216施設となっている。4機能ごとの医療提供状況は、高度急性期360床、急性期1,495床、回復期345床、慢性期791床で、6年後は高度急性期には変更がなく、急性期1,378床、回復期493床、慢性期760床となっており（2016年度病床機能報告（表2））、2025年の必要病床数に対して、回復期は大きく不足し、その他機能病床は過剰となる見込みである。

2025年の医療需要の状況を見ると、すべての機能区分で流出がみられるが、高度急性期・急性期において宇都宮、県南区域への流出が顕著で、回復期・慢性期で若干の流入がある。疾患では、がんや救急分野で多く流出する（図2、3）。

【表1】 県北地域 人口状況

|       | 0～14歳  | 15～64歳  | 65歳以上   | 総数      | 高齢化率  |
|-------|--------|---------|---------|---------|-------|
| 県北地域  | 46,276 | 225,406 | 103,758 | 375,440 | 27.6% |
| 大田原市  | 8,888  | 45,775  | 19,430  | 74,093  | 26.2% |
| 矢板市   | 3,870  | 19,342  | 9,688   | 32,900  | 29.4% |
| 那須塩原市 | 15,627 | 70,918  | 28,919  | 115,464 | 25.0% |
| さくら市  | 6,300  | 27,450  | 11,007  | 44,757  | 24.6% |
| 那須烏山市 | 2,768  | 14,772  | 9,114   | 26,654  | 34.2% |
| 塩谷町   | 1,123  | 6,215   | 3,908   | 11,246  | 34.8% |
| 高根沢町  | 3,724  | 18,394  | 6,965   | 29,083  | 23.9% |
| 那須町   | 2,433  | 13,363  | 8,876   | 24,672  | 36.0% |
| 那珂川町  | 1,543  | 9,177   | 5,851   | 16,571  | 35.3% |

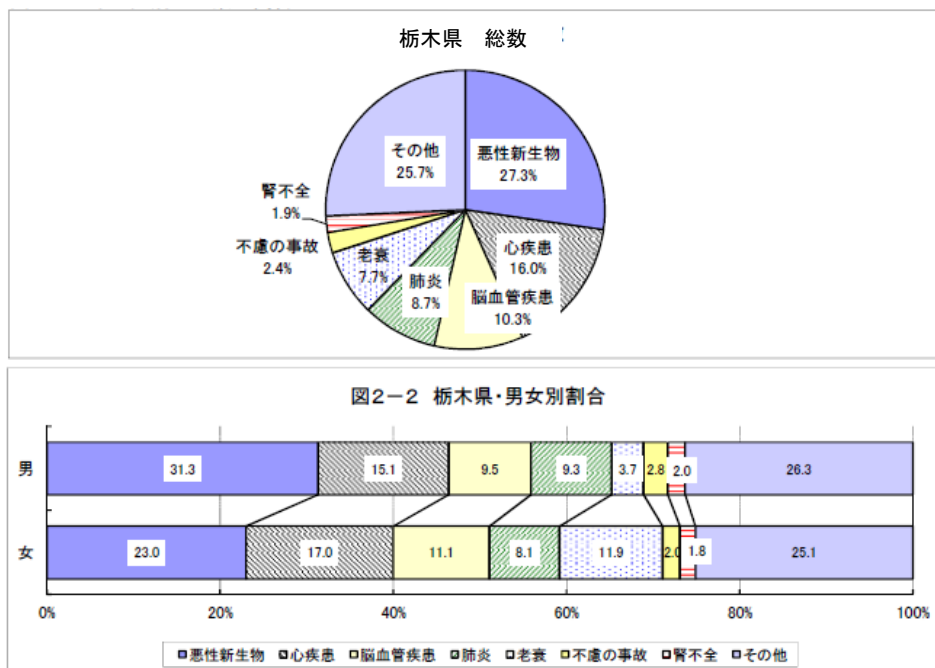
出典：栃木県年齢別人口調査(H28年10月現在)

【表2】 県北地域 4機能別病床数

|        |            | 高度急性期 | 急性期   | 回復期 | 慢性期 | 休床等 | 計     |
|--------|------------|-------|-------|-----|-----|-----|-------|
| 医療需要   |            | 174   | 647   | 830 | 461 |     | 2,112 |
| 必要病床数  |            | 232   | 830   | 922 | 501 |     | 2,485 |
| 病床機能報告 | 2016年      | 360   | 1,495 | 345 | 791 | 19  | 3,010 |
|        | 2022年(6年後) | 360   | 1,378 | 493 | 760 | 19  | 3,010 |

出典：栃木県地域医療構想およびH28年度病床機能報告

【図1】 死因別死亡状況

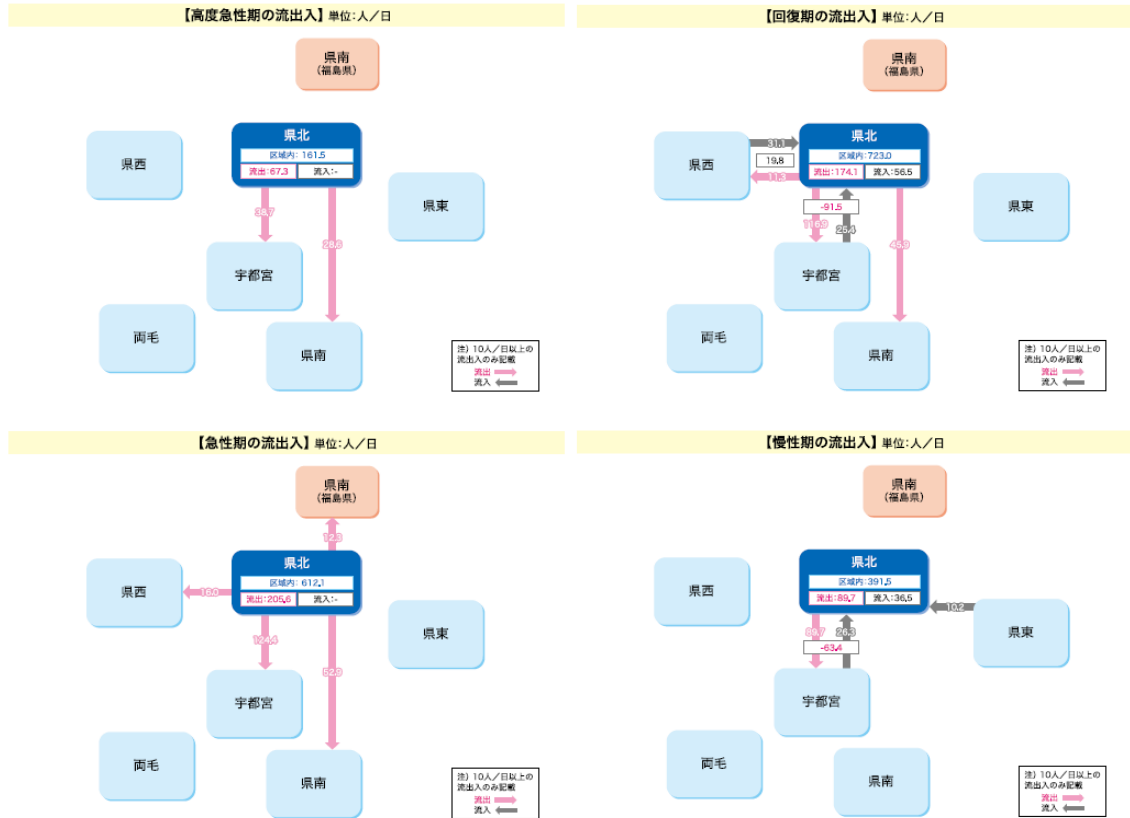


出典：H28年 栃木県人口動態統計

【図2】 県北区域の患者流出入状況

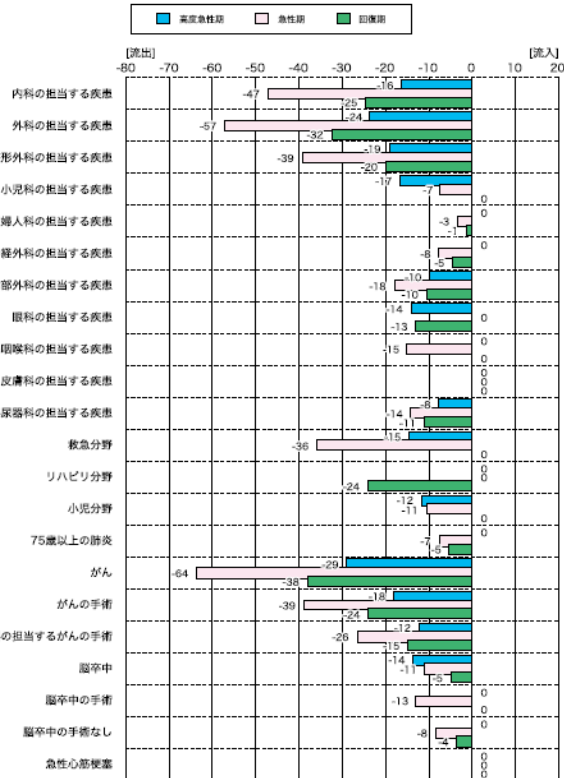
県北区域の患者流出入(2025年)

県北区域の患者流出入(2025年)



【図3】 2025年必要病床数での患者流出入状況

2025年の必要病床数での患者流出入状況(県北)



## 2. 構想区域の課題

高度急性期・急性期において、病床数は過剰であるもののがんや救急領域を中心に区域外への流出が想定されており、本区域内での受療率向上に向けた機能分担・連携強化が必要となる。救急医療体制については、病院前救護体制との区域に差異があることに注意して検討する必要がある。

回復期については、病床の充実が求められ、また予定している医療機関もあることから、各医療機関が地域において担うべき役割を検討し、医療需要に見合った医療体制のあるべき姿を考えることが必要である。また、当該病床が有効に機能するために、慢性期病床や在宅医療等との連携についてもさらなる検討が必要となる。

慢性期については、縮小を予定している医療機関はあるものの必要病床数に対し過剰であり、入院医療需要に対し医療機関が担うべき役割を検討する必要がある。

在宅医療については、需要が高まることが予測されており、在宅療養支援診療所、在宅に携わる医師や訪問看護ステーションなどの基盤整備を促進し、医療資源の確保・充実を図るとともに、在宅療養患者を支える、保健・医療・福祉・介護等の他職種連携によるネットワークづくりが必要となる。在宅医療資源については、区域が広大で人口密度が低いため、効率的な運用と連携が必須である。

小児分野では、小児専門医のいる中核医療機関への集中緩和を図るためにも、医療機関の機能分担や連携による適切な小児医療体制の整備が必要となる。また、高齢者に多い疾患については、急性期治療後の慢性期病床や在宅医療等の医療機能の充実や介護連携を図る必要がある。特に高齢化率・高齢者世帯が増加する中、需要が高まる領域である。

### III 那須赤十字病院の現状と課題

#### 1. 日本赤十字社の使命・基本原則

## Mission statement

### 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

### わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する  
7つの基本原則にしたがって行動します。

#### 人 道 [Humanity]

人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に  
努めます。

#### 公 平 [Impartiality]

いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。

#### 中 立 [Neutrality]

すべての人の信頼を得て活動するため、いささかの争いに  
加わりません。

#### 独 立 [Independence]

国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての  
自立性を保ちます。

#### 奉 仕 [Voluntary Service]

利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。

#### 単 一 [Unity]

国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を  
進めます。

#### 世界性 [Universality]

世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を  
合わせて行動します。

### わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。



## 2. 那須赤十字病院基本理念・方針

### 基本理念

マイタウン・マイホスピタル ～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

### 基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくります。
3. 日々の研鑽を惜しまず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

## 3. 診療実績（直近5カ年）

### 3.1. 患者数等

新築移転後、外来患者数は増加し続け、平成24年度823人/日から平成28年度956人/日と133人/日の増である。入院患者数についてはほぼ横ばいで390人/日強で推移している。また救急患者の取扱いは、地域の協力を得て、二次三次に特化して受け入れており、9,500人/月前後で推移しているが、年々入院率が増加しており、より救命救急センターとしての役割を果たしている状況である（表3）。

※平成24年度は、移転年であり旧病院（震災の影響で建物利用の制限あり）実績が3か月ある。

### 3.2. 手術件数等

手術件数については、当該年度の医師の構成状況にも影響される場所であるが、4,000件/年前後で推移しており、うち4割弱が全身麻酔手術となっている。また、悪性腫瘍手術は400件前後で推移、腹腔鏡下手術は年々増加し、昨年度実績は327件となっており、がん診療拠点病院としての役割、患者ニーズである低侵襲治療を積極的に行っている（表4）。より低侵襲であるインターベンション治療も積極的に行っており、夜間・休日にも迅速に対応している（表5）。

### 3.3. 紹介・逆紹介率

平成18年度に地域医療支援病院に指定されており、地域の医療機関、介護・福祉施設との連携を推進し、当院の果たすべき入院診療、専門診療を中心に患者を受け入れている。紹介率は、近年では70%台、逆紹介率は60%台で推移している（表6）。

【表3】 患者数推移

(単位:人)

|            | 平成24年度  | 平成25年度  | 平成26年度  | 平成27年度  | 平成28年度  |
|------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 延外来患者数     | 220,577 | 247,332 | 247,066 | 257,902 | 254,306 |
| 1日あたり外来患者数 | 823.0   | 919.4   | 935.9   | 973.2   | 956.0   |
| 延入院患者数     | 137,587 | 145,108 | 142,897 | 143,486 | 143,929 |
| 1日あたり入院患者数 | 377.0   | 397.6   | 391.5   | 392.0   | 394.3   |
| 病床稼働率      | 90.0%   | 89.7%   | 88.4%   | 87.1%   | 87.6%   |
| 救急患者数      | 8,536   | 8,861   | 9,559   | 9,598   | 9,370   |
| 救急入院患者数    | 3,274   | 3,337   | 3,476   | 3,835   | 4,106   |
| 救急外来患者数    | 5,262   | 5,524   | 6,083   | 5,763   | 5,264   |
| 救急入院割合     | 38.4%   | 37.7%   | 36.4%   | 40.0%   | 43.8%   |

【表4】 手術件数推移

(単位:件)

|        | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総数     | 3,584  | 4,242  | 4,016  | 3,944  | 3,863  |
| 全麻件数   | 1,575  | 1,823  | 1,499  | 1,351  | 1,457  |
| 悪性腫瘍手術 | 322    | 443    | 419    | 385    | 440    |
| 腹腔鏡下手術 | 199    | 267    | 235    | 313    | 327    |

【表5】 インターベンション治療件数推移

(単位:件)

|         | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 血管系IVR  | 250    | 227    | 168    | 214    | 110    |
| 非血管系IVR | 72     | 90     | 92     | 81     | 99     |
| 心臓カテーテル | 170    | 230    | 124    | 62     | 194    |
| PCI     | 171    | 139    | 194    | 213    | 229    |

【表6】 紹介・逆紹介率推移

|      | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 紹介率  | 62.1%  | 63.9%  | 71.6%  | 72.1%  | 74.6%  |
| 逆紹介率 | 33.1%  | 35.1%  | 53.4%  | 63.6%  | 61.6%  |

※医療法改訂によりH26年度より新基準にて算出

#### 4. 人員体制について

職員数については前述（I 那須赤十字病院の基本状況）の通りだが、専門医、認定・専門看護師など、国家資格の他、それぞれの領域における専門を極め資格を持つ職員が多く在籍し、提供する医療の質の向上に繋がっている（表7）。

【表7】

|                          | 人数 | 主な領域   |
|--------------------------|----|--|
| 医師                       | 92 | 内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、救急医学、麻酔科等              |
| 看護師                      | 68 | 特定看護師、感染管理・救急・がん・認知症・糖尿病・皮膚・排泄等の認定、災害支援、内視鏡、IVR等 |
| 薬剤師                      | 24 | がん薬物療法、小児薬物療法、妊婦・授乳婦薬物療法、感染制御等                   |
| 放射線技師                    | 25 | 医学物理士、救急撮影認定技師、超音波検査士、放射線治療等                     |
| 検査技師                     | 30 | 国際細胞検査士、超音波検査士、救急・病理・輸血検査技師、胚培養士等                |
| その他（臨床工学技師・管理栄養士・理学療法士等） | 25 | 呼吸療法士、透析技術、糖尿病療養指導士等                             |
| 事務職員                     | 72 | 診療情報管理士、がん登録、病院経営管理士、医療情報技師、医療福祉連携士等             |

## 5. 提供する医療の特徴と政策医療について

当院は4機能のうち、高度急性期および急性期を中心に医療を提供しており、消防隊の病院前トリアージの協力もあり、二次三次を中心とした救急患者（脳梗塞や急性心筋梗塞、外傷、高齢者救急）を受入れて、救命救急センター（ICU・GICU・救急病棟：高度急性期）として、機能を発揮できている。GICUについては、平成27年度から稼働病床を倍増させ、術後管理などの面で強化した（その分ICU稼働が減少）（表8）。できるだけ早く初期治療を開始し救命率を上げるため、ヘリポートを地上および建物屋上に設置しておりヘリポート利用は約4件/月、ドクターカーは、約12件/月の出勤がある。なお、ICUにはICU専従医師として2名の集中治療専門医を配置している。小児救急対応は、関連大学や地域の小児科医師と共同で輪番体制を取っている。さらに、受入不能事例は定期的に検討、CPA事例は2003年から原則死亡画像診断を実施し、救急診断の精度向上に努めている。

さらに、NICU・GCU（高度急性期）を有し、ハイリスク出産を多く取り扱っている。小児科医8名、産婦人科医6名、助産師25名のほか、小児救急看護や新生児集中ケアなどの認定看護師により周産期医療提供体制を構築している。ただし、32週未満の出産を取扱う医療機関が当院のみとなり、最近ではNICU・GCUが満床の状態が続いている。

がん診療拠点病院としては、患者のQOLに考慮した集学的治療を実施しており、外来で可能な治療は、患者の希望や状態により外来で行い、終末期だけでなく早い段階から緩和ケアチームが介入している。がん相談支援では、専門看護師を中心に相談対応やピアサポートの実施、平成27年度からは就労支援を行っている。

また、赤十字病院・災害拠点病院として、救護班・D-MATを有し、災害の際には日本全国へ派遣し初期の救急医療から慢性期のこころのケアまで、現地医療機関・チームと連携、サポートを実施している。東日本大震災や熊本地震、鬼怒川の水害、直近では、平成29年3月の那須町の雪崩事故へ派遣した。日頃より、現場において有機的に活動できるよう、栃木県や大田原市、消防などと協力しながら訓練を実施するとともに、各職種において研鑽に励んでいる。

また、へき地医療拠点病院として、大田原市、那須町の無医地区での巡回診療を行っている。

【表8】 病床稼働率推移

(単位:%)

|        | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ICU    | 68.7   | 62.3   | 52.8   | 50.4   | 52.5   |
| 救急病棟   | 78.7   | 79.1   | 74.6   | 73.0   | 74.9   |
| GICU   | 56.6   | 46.8   | 54.0   | 40.6   | 30.7   |
| NICU   |        |        |        | 89.8   | 91.1   |
| GCU    |        |        |        | 35.7   | 40.1   |
| 緩和ケア病棟 |        | 89.6   | 81.6   | 82.2   | 88.9   |
| 病院全体   | 90.0   | 89.7   | 88.4   | 87.1   | 87.6   |

※算出式＝延患者数÷稼働病床数×日数

※GICUはH27年度から8床に増床

【表9】 救急車搬送入院状況

| 施設名          | 救急車による搬送の率(1か月当たりの数) |               |               |               |               |
|--------------|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|              | 平成23年度               | 平成24年度        | 平成25年度        | 平成26年度        | 平成27年度        |
| 那須赤十字病院      | 21.4% (112.6)        | 17.3% (103.7) | 17.4% (111.8) | 17.6% (107.5) | 16.4% (108.7) |
| 国際医療福祉大学病院   | 6.4% (29.7)          | 7.1% (35.7)   | 9.4% (50.6)   | 10.0% (60.4)  | 10.5% (65.9)  |
| 菅間記念病院       | 18.9% (40.9)         | 23.1% (56.1)  | 25.3% (52.8)  | 25.2% (47.2)  | 20.3% (40.8)  |
| 恵生会黒須病院      | 16.0% (18.1)         | 19.5% (20.5)  | 16.7% (16.7)  | 18.3% (18.3)  | 18.9% (18.3)  |
| 亮仁会那須中央病院    |                      |               |               | 14.0% (6.2)   | 9.3% (3.6)    |
| 国際医療福祉大学塩谷病院 |                      |               |               | 9.4% (16.7)   | 4.4% (8.9)    |

出典: H28年度 厚生労働省 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 DPCデータ

【表10】 分娩取扱い推移

|      | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 正常分娩 | 392    | 479    | 559    | 599    | 531    |
| 異常分娩 | 151    | 231    | 311    | 279    | 246    |
| 総数   | 543    | 710    | 870    | 878    | 777    |

【表11】 がん治療取扱い状況

(単位:件)

|          | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 外来化学療法件数 | 2,479  | 4,268  | 3,196  | 3,239  | 3,492  |
| 放射線治療件数  | 1,369  | 3,821  | 3,909  | 5,752  | 4,599  |

【表12】 へき地診療推移

|      | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 回数   | 51     | 47     | 43     | 48     | 50     |
| 延患者数 | 281    | 240    | 204    | 214    | 217    |

## 6. 他医療機関との連携について

地域医療支援病院として、入院治療、専門治療などを中心とした医療を提供するため、地域医療機関と連携を密にしている。「他院より紹介あり」での入院患者は、直近では70%を越えており、「地域の病床」として地域医療を支えているといえる（表13）。退院支援を早期から開始し、急性期治療後に治療や療養が必要な患者には、地域の医療機関のご協力のもと、適切な医療機関を紹介し、脳卒中や大腿骨骨折、廃用症候群など連携パスを活用しているため、転院患者も多い。なお、在宅療養となる患者に対しても、往診可能な診療所や訪問看護など介護・福祉との連携を強化して行っている。院内に「かかりつけ医紹介相談窓口」を設置し、かかりつけ医を持たない患者や急性期以降の治療が必要な患者等を対象に、逆紹介を推進している。

また、地域医療機関からのMRIやCTの画像診断依頼が200件/月近くあり、高額医療機器、放射線診断医が地域に貢献しているといえる（表15）。さらに、感染対策の質の向上のため、室井病院および芳賀赤十字病院と相互チェックを行う連携を行っている。

【表13】 紹介ありの入院状況

| 施設名          | 他院よりの紹介ありの率(1か月当たりの数) |               |               |               |               |
|--------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|              | 平成23年度                | 平成24年度        | 平成25年度        | 平成26年度        | 平成27年度        |
| 那須赤十字病院      | 66.8% (351.1)         | 62.1% (373.1) | 61.3% (392.9) | 68.2% (415.9) | 70.3% (464.9) |
| 国際医療福祉大学病院   | 13.1% (60.6)          | 29.3% (147.2) | 44.6% (240.3) | 54.4% (327.0) | 60.3% (378.8) |
| 菅間記念病院       | 19.7% (42.8)          | 28.9% (70.0)  | 34.2% (71.4)  | 31.0% (57.9)  | 29.4% (59.3)  |
| 恵生会黒須病院      | 19.6% (22.2)          | 21.5% (22.7)  | 22.4% (22.3)  | 21.8% (21.8)  | 23.5% (22.8)  |
| 亮仁会那須中央病院    |                       |               |               | 11.7% (5.2)   | 13.0% (5.0)   |
| 国際医療福祉大学塩谷病院 |                       |               |               | 10.2% (18.2)  | 11.8% (23.9)  |

出典：H28年度 厚生労働省 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 DPCデータ

【表14】 退院患者の転院状況

| 施設名          | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 那須赤十字病院      | 7.3%   | 7.1%   | 6.8%   | 7.9%   | 7.1%   |
| 国際医療福祉大学病院   | 2.8%   | 3.3%   | 3.9%   | 3.4%   | 2.9%   |
| 菅間記念病院       | 1.9%   | 3.1%   | 2.6%   | 3.4%   | 2.6%   |
| 恵生会黒須病院      | 3.6%   | 3.4%   | 3.1%   | 3.1%   | 4.3%   |
| 亮仁会那須中央病院    |        |        |        | 4.2%   | 3.5%   |
| 国際医療福祉大学塩谷病院 |        |        |        | 1.9%   | 2.5%   |

出典：H28年度 厚生労働省 診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会 DPCデータ

【表15】 放射線科依頼件数

(単位：件)

|              | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 紹介件数         | 1,807  | 1,765  | 1,930  | 2,371  | 2,331  |
| MRI院外依頼      | 739    | 688    | 872    | 1,210  | 1,297  |
| MRI全件数に対する割合 | 9.4%   | 7.6%   | 9.5%   | 13.3%  | 14.3%  |
| CT院外依頼       | 1,082  | 1,065  | 1,038  | 1,168  | 1,115  |
| CT全件数に対する割合  | 8.4%   | 7.4%   | 6.8%   | 6.9%   | 6.4%   |

## 7. 今後の課題

高齢化の進展にともない、高齢者の急変対応として、救命救急センターの受け入れ体制の強化と、地域で不足している、急性期治療後の患者の受け皿となる医療機関の整備が必要である。現在でも、冬期には高齢の入院患者（呼吸器、循環器系）が増加し、急性期後の治療・療養場所が不足し、当院に留まることとなり、新規の救急患者の受け入れに影響を来たす場合もあるため、早急に地域での協議を行っていききたい。

一方で、新病院移転以降、外来患者数が増加傾向で1,000人/日を越える日も少なくなく、患者待ち時間や入院診療、手術の開始時間などに影響が出ている。更なる逆紹介の推進を行い、地域での機能分化が必要と考えている。

## IV 今後の方針

### 1. 地域において今後担うべき役割

重度の急性期疾患（脳梗塞や急性心筋梗塞、重度外傷など）に対応する高度急性期機能の提供体制は維持していく。超急性期を脱した患者や手術が必要な患者の対応（7対1病棟）、がん患者などの終末期ケアが必要な患者の対応（緩和ケア病棟）の体制は継続して担うべきと考える。

赤十字や公的医療機関としての役割である、救急医療、へき地診療、周産期医療、救護活動など不採算といわれる領域についても継続して体制を確保する。

なお、県北地域では患者の一部流出がみられるが、地域面積が広大であること、区域と救急医療体制圏域、生活圏との差異、大学病院などの所在などを考慮すれば、一刻を争う超急性期疾患や稀少疾患などの流出は患者利益のため致し方ないことと考えている。区域にとらわれない病院間連携により、地域住民が安心できる地域医療体制を構築していく。

### 2. 今後持つべき病床機能

現在の病床機能の維持が肝要である。

周産期領域については、患者推計としては減少傾向であるが、出産の高齢化によるリスク、地域医療機関の取扱い状況により、当院の機能強化を検討する必要がある。

### 3. その他見直すべき点

病床機能の見直しは、現時点では検討していない。ただし、地域医療需要の変化や地域の医療機関において機能変更などあった場合には、柔軟に対応する用意がある。

また、外来機能の分化が進んでいないため、継続して患者啓蒙を行っていききたい。県北地区では情報提供施設6施設、閲覧施設が42施設となっている（平成29年9月1日現在）とちまるネットの更なる活用も、連携施設とともに推進していきたい。

## V 具体的な計画

### 1. 4機能ごとの病床のあり方について

救命救急センター指定の30床および新生児特定集中治療室（6床（稼働3床）・新生児治療回復室（10床（稼働6床））については「高度急性期」として、2025年度に至るまで需要があると思込み機能を維持する。またその他の病床については、一般病棟入院基本料（7対1：377床）病棟は「急性期」として、手術適応患者および急性疾患患者、高齢者のアキュート対応のために病床を維持する。なお緩和ケア病棟20床については、終末期がん患者等の在宅療養における急変、症状憎悪対応で短期入院を基本とし、「急性期」機能とする（表16）。

この他、4機能区分対象外として感染症病床6床を持つ。

【表16】

|       | 現在<br>(平成28年度病床機能報告) |   | 将来<br>(2025年度) |
|-------|----------------------|---|----------------|
| 高度急性期 | 47                   | → | 47             |
| 急性期   | 397                  |   | 397            |
| 回復期   | 0                    |   | 0              |
| 慢性期   | 0                    |   | 0              |
| (合計)  | 444                  |   | 444            |

【表17】

|             | 取組内容                     | 到達目標                               | (参考)<br>関連施策等 |
|-------------|--------------------------|------------------------------------|---------------|
| 2017年度      | ○合意形成に向けた協議              | ○自施設の今後の病床のあり方を決定(本プラン策定)          |               |
| 2018年度      | ○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討 | ○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方に関する合意を得る |               |
| 2019～2020年度 |                          |                                    |               |
| 2021～2023年度 |                          |                                    |               |
|             |                          |                                    |               |



2. 診療科の見直しについて

見直しの予定なし

3. その他の数値目標について

人件費用については、正職率が高くかつ離職率が低く、育児・介護など家庭事情に柔軟に対応した雇用制度を取っており、地域の雇用供給機関としても大きなウェイトを占めている。また、専門性を高め、医療の質を高めるための研鑽を励行しており、それらの医業収益に占める割合は大きい（表 18）。

【表 18】

| 項目名                   | 数値目標 |
|-----------------------|------|
| 病床稼働率                 | 90%  |
| 紹介率                   | 80%  |
| 逆紹介率                  | 80%  |
| 人件費率                  | 55%  |
| 医業収益に占める人事育成にかかる費用の割合 | 1%   |

## VI その他

### 【救急医療】

【表19】 その他救急

(単位:件)

|                | 平成24年度         | 平成25年度         | 平成26年度         | 平成27年度         | 平成28年度         |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 救急車受入件数        | 2,606          | 2,675          | 2,832          | 2,963          | 2,982          |
| うち入院件数<br>(割合) | 1,759<br>67.5% | 1,749<br>65.4% | 1,808<br>63.8% | 1,866<br>63.0% | 2,014<br>67.5% |
| 緊急手術件数(手術室実施)  | 483            | 530            | 505            | 466            | 496            |

### 【その他】

- ・機能強化型訪問看護ステーションの設置（看護師数：7名、事務員：1名）
- ・赤十字統一の看護師教育制度を導入し、質の高い看護を提供。
- ・県北地域の看護師の教育・研修会の企画運営実施。また、外部研修会へ看護師を派遣し、地域の看護の質向上に貢献。
- ・保健福祉職員や地域住民対象に、看護師による講習会、救急法の指導を実施し、在宅医療に貢献。
- ・地域支援連絡会や地域包括ケアを考える会、地域勉強会など近隣施設と「顔の見える連携」の一環として各種会合を開催、積極的に参加。
- ・日本医療機能評価機構による病院機能評価によるS評価を、感染制御、救急、地域連携領域で獲得。
- ・臨床研修病院として、初期研修医が7名在籍（平成29年度）。地域の医療機関の協力も得て、地域医療研修の実施など魅力ある研修プログラムを設定。
- ・地域基盤臨床実習の学生受入れ施設であり、慶応義塾大学や獨協医科大学、自治医科大学の学生も積極的に受入れ実施。
- ・看護師、救命救急士、リハビリテーションスタッフなど実習生の積極的な受け入れを実施（表20）。

【表20】 実習受入人数推移

(単位:人)

|               | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 看護師           | 53     | 76     | 130    | 130    | 134    |
| 准看護師          | 44     | 44     | 43     | 39     | 24     |
| 救急救命士         | 14     | 22     | 21     | 18     | 23     |
| (再)救急救命士(消防士) | 12     | 16     | 14     | 12     | 16     |
| リハビリテーション     | 9      | 4      | 12     | 11     | 8      |
| 放射線技師         |        | 3      | 6      | 5      | 5      |
| 検査技師          | 2      | 2      | 2      | 2      | 2      |
| 事務職           | 2      | 2      | 2      | 2      | 2      |
| 臨床工学技士        | 2      | 2      | 1      | 2      |        |
| 薬剤師           |        |        |        |        | 3      |
| 栄養士           |        |        | 2      |        |        |
| 社会福祉士         |        |        |        |        | 1      |
| 総計            | 126    | 155    | 219    | 209    | 202    |

【主な設備・施設】

・救命救急センター



屋上ヘリポート

緊急受入れに対応・災害時に使用  
使用可能な地上ヘリポートも整備



ドクターカー

迅速な初期診療に対応

・災害対策



免震構造（117基設置）



非常用発電機（7日間の電力供給）



マイタウンホール

配管を施し傷病者受入れが可能

・周産期医療

パースセンター

「おうち」の雰囲気の中、入院から  
出産、退院まで過ごせる



NICU（6床）

早生児など新生児を集中管理

## ・がん医療



外来化学療法センター (20 室)

患者のライフスタイルに合せた治療を提供

緩和ケア病棟 (20 床)

全室個室の 20 床で精神的サポートも提供



## ・中央診療部門

IVR 室 (2 室)

画像診断技術を応用した低侵襲医療



手術室

ハイクルーム 2 室・外来専用 2 室を含む 10 室

